

## 農業・工業試験場

札幌付近における農業試験場は、明治四年につくられた開拓使の札幌官園に始まり、その後、明治九年に設置された札幌農学校が、あらゆる北海道の農業の試験場でもありました。明治三十四年、札幌農学校の一部（北区北十八西十一）に、北海道庁が全道を系統的に開発する農事試験場（後に農業試験場に改称）を創立しました。ここを中心に道内農産物の品種改良や農産製造に関する試験が拡大されていきました。大正十一年、従来の用地と庁舎では手狭になり、現農試公園付近に移転が決まり、大正十四年に完成しました。農業試験場はその後昭和四十一年羊ヶ丘と長沼町に移転するまで置かれていました。

農業試験場ができてからは、新品種の導入、農業技術の指導などを受け、琴似付近は札幌市の野菜供給地としての性格を強めていきます。その後、円山朝市が開設されてからは、野菜栽培に拍車がかかりました。工業試験場は、道内中小工

場の技術向上とその研究成果の普及を図るため、大正十一年に設立認可を受けました。大正十二年、醸造と窒素の試験・研究から始まり、後に化学工業、機械金属、工芸、包装、食品、工業装置などの分野に及びました（昭和五十二年北区北十九西十一に移転）。

工業試験場の設置後は、琴似地区は日本製麻、土屋鉄工場、小能製材工場など大規模な工場が続々と設立され、工業地帯としての性格がはっきりしてきました。それは札幌小樽間に位置していて、鉄道の沿線であり、しかも電力の利用が容易であり、札幌市内よりも税金が安く、工場敷地を得るのにも容易であるなどによるものです。

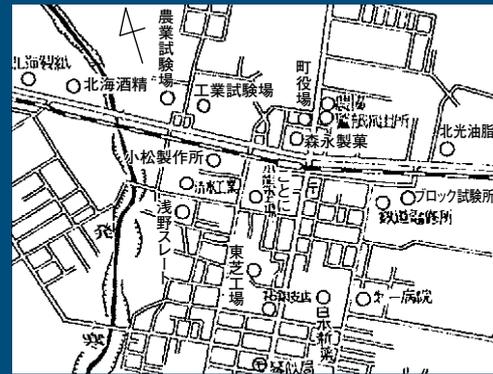
このように農業試験場・工業試験場の誘致の成功は、地元農村の技術的進歩や農村の工業化のほか、札幌市の膨張発展に伴う住宅街形成の契機をつくったことなど、その影響は大きいものでした。

〔参考文献〕琴似町史、郷土史八軒のあゆみ

## 工業地帯の面影



▲大正12年に開場した北海道工業試験場



▲昭和30年ころの琴似市街図(琴似町史より)



▲キャラメルなどを作っていた森永製菓の工場（昭和25～50年まで操業）



▲昭和4年に建設された日本食品製造合資会社。左の工場はレンガ館として保存されている



▲土屋鉄工場

## 広告欄